



学校は何のために行くところか

初日の学級活動の時間を使って、とても大切な話をいくつか行いました。

特にこの時期に外せないのは、学校に来る「目的」の話です。

何の為に学校に通い、多くの時間を共に過ごすのか。

これは、「学校」としての一丁目一番地となる超重要項目です。

1年どころか、小学校生活 6 年間で貫く重要な話だからこそ、4月のスタートに伝える内容から外すことができません。

まず、問いました。

「学校は何をするところですか?」と。

すぐさま、

「勉強!」

との即答が返ってきました。

その通り。

学校とは勉強をする場所です。

勉強をすると、分からないことが分かったり、出来ないことが出来るようになったりします。

知識や技が増えること、つまり「かしこく」なるために学校に来ています。

学校に来て、賢くならず馬鹿になってしまうのなら、学校には来ない方がいいでしょう。

学校という場所は、勉強をして、みんなが賢くなっていく為にあります。

だから、学校に来ている間にほんの少しでも何かを学び、朝来た時よりもわずかでもいいから成長して家路についてほしい。 その様に願っています。

学校に来る目的の第一は、「かしこく」なること。

この事を簡単にホワイトボードに書き、まず全員で確認しました。

ただし。

かしこくなるだけでは十分とは言えません。

学校には、もう一つ大切な目的があります。

実際の学活では、ここで立ち止まって一度考える時間を取りました。

「かしこくなるだけでは、足りないだけでなく、あぶないんです。」
とも付け加えて。

仲良くすること。

思いやりをもつこと。

ルールを守ること。

教室では色々な意見が出てきました。

一通り意見が出たところで、次のようにまとめました。

学校に来る目的の第二は、「カッコよく」なること。

大前提として、「格好良く」とは、外見を指している訳ではありません。

日本語の中で容姿を指して使われるようになったのは実は最近のことで、この言葉のもともとの意味は「ふさわしい」という意味です。

4年生にも伝わりやすいように「ピッタリ」という表現も使いました。

では、何においてふさわしく（ぴったりと）なることが求められるのか。

みんなにとっては、それは当然「小学生として」という冠がつきます。

幼稚園や保育園時代を卒業し、晴れて「小学生」の仲間入りを果たしてからみんなはすでに3年の月日が流れました。

その立場に「ぴったり」「ふさわしい」のはどのような姿か。

考えれば、おのずと「かっこいい」姿が見えてくるはずです。

また、今年は生まれてから10年目を迎える年でもあります。

赤ちゃんの頃とは違い、幼稚園や低学年の頃とも違い、10年の歳月を歩んできたからこそできることが、きっとあるはずです。

ここに「ふさわしく」、「ぴったり」となっていくとはどのようなことか、ぜひ考えてみてください。

そのことを考えるのに、ぴったりの絵本があります。

「おおきくなるっていうことは」という本です。

この中には、次の文章があります。

「おおきくなるっていうことは、じぶんよりちいさなひとがおおくなるって

いること」

さらに、こんな続きもありました。

「おおきくなるっていうことは、ちいさなひとにやさしくなれるっていうこと。」

去年より、一つ大きくなったみんなには、自分より小さな人がさらに増えました。

さらに、4年生とは学校の中でいえば「上学年」といって、いわゆる「先輩」の仲間入りを果たす時期でもあります。

すでに、みんなには学校の中だけでも、200人くらいの後輩がいます。

そんな小さな人たちに優しくなれるということも、大きくなったことにふさわしい、カッコいい生き方なのだと思います。



つまり「カッコよく」とは、頭や体の成長とは別に、「心」の成長を指します。

心は目に見えませんが、色んな所に行いや言葉や振る舞いとして現れます。

イライラしてつい手を出していた人が、グッと我慢ができるようになったりすること。

ビクビクしていつも引っ込みがちだった人が、思い切ってチャレンジができるようになったりすること。

なんでも「当たり前」だと思って荒々しく物を扱っていた人が、いろんなことに「ありがたい」と感謝し、丁寧に扱えるようになったりすること。

散らかっていたロッカーや机がきれいに整頓できるようになること。

いただきますやごちそうさまを丁寧に言えたりすること。

揃うことが少なかったスリッパが美しく並ぶようになること。

そして、自分のことだけを考えていた人が、誰かのために動けるようになったりすること。

これらは、すべてカッコいい姿です。

大きく成長した姿としてふさわしい生き方です。

もちろん、他にもカッコいい姿はたくさんあることでしょう。

ぜひ、自分の思うカッコいい姿を、生き方を追究して行ってほしいと願っています。

ちなみに「カッコいい」を図る物差しは、いくつかあります。

中でも、私が特に大事だと考えているのは次の3つです。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 「同じ」を求めるのではなく、「違い」を認められる。② 「1つの見方」だけでなく、「色々な見方」ができる。③ 「自分の喜び」だけを喜ぶのではなく、「人の喜び」を喜べる。 |
|---|

この3つについては、追々詳しく述べていくチャンスがあると思います。

いくら勉強や運動ができるようになったとしても、この「心」の部分をなおざりにしてしまっていては、真なる「成長」につながりません。

だから、「かしこく」だけでは足りないし、危ないともいえるのです。

蓄えた知識を使って人を陥れたり、磨いた力や技を使って人を傷つけてしまっていては本末転倒です。

知識や技の使い方や使い道を決めるのは、いつだって自分の心です。

先日お伝えした「物の目的」とも重なることですが、目には見えない心を高め、磨いていくことは成長の上では欠かせません。

かしこくなること。

そして、カッコよくなること。

体と心の健やかな成長を、1年間、みんなと共に追いつけていきます。